

会議録審議会等

審議会等の名称	平成29年度 第2回山口市環境審議会
開催日時	平成29年11月21日(火曜日) 10:00~12:00
開催場所	山口市不燃物中間処理センター 2階会議室
公開・部分公開の区分	公開
出席者	中西委員(会長)、伊原委員(副会長)、青木委員、東委員、糸原委員、上重委員、浮田委員、加藤委員、河野委員、福浪委員、前田幸子委員、宮川委員、横山委員、吉田委員 敬称省略・順不同(14人)
欠席者	前田哲男委員
事務局	(環境部) : 藤本部長、塩見次長、三輪参事、吉富参事 (環境政策課) : 岡村課長 : 総務担当 瀧本主幹 : 環境企画担当 福谷主幹、山村 : 新エネルギー・地球温暖化対策担当 竹内主幹、野村主査 (環境衛生課) : 吉松主幹 (環境施設課) : 施設調整担当 井上主幹 (資源循環推進課) : 廃棄物調整担当 周山主幹 : 減量推進担当 石川主幹 (14人)
議題	(1) 山口市環境基本計画案について (2) 山口市地球温暖化対策実行計画案について (3) 環境概要について (4) その他 今後のスケジュールについて
	審議会の開催に先立ち環境部長あいさつの後、会長の進行により議事に入った。  【会長】 それでは、本日の議長を務めさせていただきますので、よろしくお願ひします。最初にお諮りさせていただきますが、当審議会は、原則として公開し、議事録についても公表することとしてよろしいでしょうか。  ＜異議なし＞

**【会長】**

ありがとうございます。「異議なし」のようでございますので、当審議会においては原則「公開」とし、議事録についても公表することとさせていただきます。それでは、早速、審議に入りたいと思います。議題1「環境基本計画案について」、環境基本計画策定部会の部会長から計画案作成までの経過報告をお願いします。

**【部会長】**

それでは、環境基本計画の審議状況を報告させていただきます。資料にありますように、まずは、地球温暖化対策実行計画との関係ですが、新たな環境基本計画では、環境目標として「自然共生」「資源循環」「低炭素」及び「総合推進」の4項目を掲げ、それぞれの施策について、方向性や目標達成のための取組を明らかにすることとしています。1点目ですが、現在の環境基本計画では包含する形となっていました「地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」につきましては、新たな計画体系の下で、1つの部門計画として策定することとしました。これはパリ協定以降の世界的な動きや、国の地球温暖化対策の今後の方向性を踏まえ、市の取組をより実効性の高い、効果的なものとするべく、環境基本計画において大きな方向性を示した上で個別の計画とし「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、各主体の役割や取組内容をより詳細に示す必要があると判断したことによるものである。その下の部分で環境基本計画と、実行計画の位置づけを整理しておりますが、環境基本計画は、環境基本条例の基本理念の実現に向けた計画であるということ。これは、10年前に制定されていますけれども、非常に立派な条例となっています。2つ目に総合計画を環境面から具現化、補完する計画であること。3つ目は市民・事業者・民間の団体・市、行政の行動指針であります。一方、地球温暖化対策実行計画は、法律上「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づく計画であるとうこと、2つ目は山口市環境基本計画を具体的に推進する実行計画であり、山口市環境基本計画に定める「低炭素分野」の施策を推進していくための実行計画であるということです。次に部会の審議を通して説明をさせていただきます。山口市環境基本計画案ですが、別添のとおりで、後ほど事務局の方から詳細な説明があります。審議にあたっての視点としまして、環境分野の最上位の部門計画としての位置づけにふさわしい計画にしなければいけないということが1つ、それから山口市としての計画となっているか。地域特性を反映しているかということが2つ目の点でした。出来上がった計画案の評価ですが、7回の審議を重ねまして、審議結果を反映した内容となっていると思っています。部会からの附帯意見としては、2点書いてありますとおり、「これからの人口減少社会、高齢社会にあっては、農林水産、都市整備、交通政策等の様々なまちづくりの施策の中で、環境と社会の融合を導き出すような取組が求められている。環境

を行政として取り扱う分野もより多岐にわたってきていることから、計画の実行に際しては、環境部のみならず関係する部局が有機的に連携し、相乗効果を生み出すことにより、山口市の環境に関するあらゆる取組を着実に推進するよう要望する。」ことが1点。もう1つが、「子ども達の自然体験の機会が少ない現状に危機感を持ち、地域や学校教育における体験型の環境学習を積極的に推進するよう要望する。」という点です。これに関しましては、1点目と関連するのですが、少子高齢化が本格化する中で持続可能な社会を目指さなければならないという難しい時代において、たくましく生きる力を育むひとつづくりが重要ではないかということで、「ESD」や「SDGs」を意識した広い意味での環境学習が非常に重要であると言う主旨です。ここでも環境部と教育部局の連携が重要であると思っています。次に、山口市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）案ですが、後ほど事務局ら詳細な説明がありますが、審議にあたっての視点は、実行計画という位置づけにふさわしい計画となっているか、2つ目は山口市としての計画となっているか。これは、基本計画と同じです。計画案の評価ですけれども、審議結果を反映した内容となっていると思います。付帯意見としましては、1つしか記載がありませんが、「温室効果ガスの排出削減という目標において、ガソリン消費量が全国一であるという山口市の現状を重く受け止め、交通政策、都市政策と一体となった対策を強力に進めるよう要望いたします。」ということです。それから審議会の意見をまとめられる時の意見として補足しますが、「削減目標が国の目標に習い厳しいことから、全体の状況変化、国の原発の政策や自動車の普及がどういった方向へ進むのかといった社会状況の変化によるところが大きいので、全体の状況変化を捉えつつ、具体的な施策効果の把握に努めるなど、進行管理に特に力を入れていただくよう要望する。」ことを追加させていただきます。

**【会長】**

ありがとうございました。委員の皆様は、長期にわたり審議をいただき大変お疲れ様でした。ありがとうございました。では、事務局から詳細の説明をお願いします。

**【事務局】** <計画案の説明>

**【会長】**

ありがとうございました。ただ今、事務局から「山口市環境基本計画案について」の説明がありました。委員の皆様には、計画案の内容について、御質問がございましたら、挙手をお願いいたします。

### 【委員】

この計画は、とてもよく整理されていると思います。ここまでされた関係の委員さん、職員へお疲れ様でしたと言いたいと思います。そうは言っても、見方を変えれば意見もありますのでお話をさせていただきます。まず、策定部会で検討されているとは思いますが、今回の計画は、前回の計画を受けて策定する計画であることから、どこに問題があったのか、今後どういったことについて考えなければいけないかといった整理が事前に必要ではと思いました。概要の説明の中ではありましたが、本文にあると分かり易いかと思いました。2番目ですが、環境施策は難しい面がありまして、環境施策をどう進めるかを考えた場合、なかなか妙案は思いつきません。私は以前から言っていますが、地域づくりと連動して、地域の方に興味を持ってもらう。地域づくり協議会単位で地域づくりの役員の方に環境問題に関心を持ってもらえるように働きかけをして、地域づくりの推進計画の中に取り上げていただくこと。例としては、徳地地域や阿東地域で福岡県の大木町みたいに循環するまちづくりをモデル的にやってみることもできるのではと思っています。それから進行管理指標、これは大変大事ですが、1つ例示をさせていただきますと、1-①自然環境の保全・生物多様性の確保の中の有害鳥獣の捕獲頭羽数、これが増えることによって、自然環境の保全・生物多様性の確保ができるのか、人間の都合ではないかという気がして、指標として相応しくないのではないのでしょうか。あといくつかあるのですが、再検討できればありがたいと思います。今の指標で随分検討されて進行管理をされるということですが、そういった感想を持ちました。

### 【事務局】

ご意見ありがとうございます。3点ご指摘をいただいたと思いますが、まず前回計画の問題点の整理、2点目が地域づくりと連動した環境づくり、3点目が進行管理指標についてのお尋ねがありました。今回の計画と前回の計画の問題点の整理ですが、部会の方でも議論をさせていただきました。平成17年に山口市が合併しまして、平成18年に現計画が策定されました。平成26年度に改定は行いましたが、この度計画の策定となりました。その間の取組につきましては、環境概要を通じて進行管理指標や施策の進捗状況の説明を行なってきました。その中で、前回の計画の達成状況の記述を行なう点については、全体のボリューム等を勘案し割愛をさせていただきました。しかし、前回の計画の足らなかった部分に関しましては、今回お示ししました計画の中で取組として作らせていただきました。先ほどの説明は、主に概要を使用して説明しましたので、その点の説明をすれば良かったのですが、今後は、議会や市民の皆さんに説明するパブリックコメントの場もございますので、その場面では全回の反省点や今回の取組の視点は説明を行うような項目を設けたいと思います。2点目の地域づくりと連動した環境づくりの政策ですが、この度の計画では、

我々の環境の分野だけでなく、市役所の組織でいえば、経済産業部や地域生活部、教育委員会、健康福祉部といった山口市役所総体での取組を進めて行きたいということを強く打ち出したものです。この辺りが先ほど部会長さんから発言がありました、SDGs・ESDを記述している部分であります。山口市全体で進めていくということを踏まえた施策の展開、オール山口として地域づくり協議会へも行政からお願いをしたり、取組の依頼をする場も多々あるかと思えます。後ほど説明も行いますが、地球温暖化対策実行計画、低炭素社会の実現に向けた地球温暖化対策の進め方の中でも市民のみなさんや地域と協働した進め方を重視しています。自然共生や循環型社会につきましても、地域に出向きまして取組を進めてまいりました。こうした取組を更に進めて行きたいことを環境基本計画に滲ませていますので、基本計画という性質上、具体的な取組を記載しているわけではありませんが、今後10年の取組の中で1つ1つ進めて行きたいと考えています。進行管理指標につきましては、現在、環境基本計画の上位計画である第2次山口市総合計画を策定中として、進行管理指標も総合計画との調整を図りながら設定を進めております。庁内の検討、部会での審議をいただっており、環境分野のみでなく、総合計画上の各分野の施策体系上のものが入っております。先ほどの自然環境の保全の所でいいますと、有害鳥獣の駆除頭羽数が何故入っているのかということですが、農林政策の方で人の手が入らないことによる農地の荒廃が進んでおります。有害鳥獣の管理を行うことが保全につながるという観点から設定しております。特定外来生物、例えばヌートリアといった法律上駆除することになっている生物を指標とすることで、在来種の保護という点からこの指標を上げています。いろいろな分野のピックアップできるものを環境基本計画上でも指標としています。その他、調整できる点はしていきたいと考えております。

**【委員】**

これは、数字が増えれば保全が進んでいるのですか。先ほどの説明でありましたように人の手が入らない部分を如何に、現場は高齢化が進んでいますし、不可能だとは思いますが。人の手が入らない場所の管理が行政とはいえない部分もあるとは思いますが、いかがでしょうか。

**【部会長】**

委員の意見もごもっともだと思いますが、有害鳥獣の捕獲頭数。おっしゃるとおり、里山が荒れないように管理することが1番だとは思いますが、どのように維持するかは、高齢化もあり、難しい課題だと思います。人の手が入っているということが解れば、有害鳥獣も出てこないと聞くので、里山の管理が大事だと思います。しかし、この進行管理指標を設定する時には、実際の裏づけがないといけませんので、大事な方向性はあげておいて、それに向けて努力す

るという位置づけも大事ではないかという意見をさせていただきました。次に周辺部における食べ物ごみの処理ですが、全部を燃やしてしまうのではなく、農業に利用できる地域では、コンポストを作って利用するというのを頭において政策を進めていただく。これは非常に大事なことです。し尿処理場では高度処理を行って流していたものを前処理にとどめ、下水処理としてバイオガスとしてエネルギーの有効利用も図っておられ、進行管理指標にもあがっています。このように有効利用についても必要だと思います。補足になっているか分かりませんが、以上です。

#### 【委員】

環境目標2で循環型のまちづくりですが、スーパーなんかでは、期限切れの食品を廃棄していますが、有機農家はそうした食品を集めて、家畜などの飼料としていました。また、家庭から出る廃油ですが、これを集めてバイオディーゼルとして燃料として使っていました。問題点として、1つの地域では集める量が少なく経済的にペイできないということがあり、狭い流通の中での実現は難しいことから、周囲の都市と連携をしながら集めていくと量も確保できますので、経済的にも可能ではないかと思いました。廃油の問題は、バイオディーゼルは品質の問題で軽油には使えないということで、何に使えるかという、ボイラーの燃料であれば、廃油でも十分使用できます。量的に蓄えられれば有用であろうと思います。山口市だけで考えていくというよりも周囲の市と連携をとりながらであれば、有効的なものになるかと思っています。それと目標3の低炭素社会ですが、EVや燃料電池車が脚光を浴びていますが、山口市として対外的にアピールできると思うのですが、ここではインフラ整備が大切になってきます。これには結構な費用がかかるとは思います。推進する意図を理解し、先見性を持っていただきたい。また、水力や風力、太陽光などを絡めた低炭素社会の実現を目指してほしいという感覚を持ちました。重点プロジェクトが3つありますが、山口の自然を知ろう、もったいないを減らそう、気候変動を知ろう、これは知識を蓄えていくものになっていると思います。もう1つ、社会と環境とのつながり。環境が大切なのは、社会とのつながりがあるからで、環境が悪化すると生活空間が悪化する、さらに経済が悪化する。だから自分たちの生活を改善していかないといけないということから、つながりの側面があればいいのかなと思いました。

#### 【事務局】

ご指摘をいただいた中で、バイオディーゼル、他市との連携についてですが本編の環境目標4が該当するところで、本編の42ページからになります。その中で、多様な主体による環境保全活動の促進、他都市との連携の項目を設けさせていただいております。具体の事業は示しておりませんが、山口市として、

宇部市さんを始め広域の連携中枢都市づくりを進めております。広域経済交流圏を総合計画の中で打ち出していますが、すでに環境問題につきましても、山口市だけで取り組むことができ完結するものではないという認識も十分にいたしております。そうした中で4-②で触れさせていただいております広域的な環境問題を認識し、近隣自治体と連携し環境課題の解決に取り組んでいく。ごみ問題等もあろうかと思っています。様々な山口市の枠を超えた、周辺の自治体、また、県内の自治体との連携、特に温暖化対策は近隣の自治体と協力していきたいと思っています。何かしらできることがあると思っていますので、まずは連携中枢都市の枠組みの中でできる事業につきまして、機会をとらえて協議を行っていききたいというのが、山口市の考えでございます。環境問題3では、EVや次世代自動車のお話がありましたが、インフラ整備は大切なことですが、山口市として今できることEVの急速充電器や再生可能エネルギーの普及活動に関することについては、今後も続けていくことです。具体的なことは温暖化対策実行計画の方で記載をしております。先見性を持ち進めていかなければいけないのはもちろんですが、環境基本計画をベースとして、経済と社会との連動性をみながら進めていきたいと考えております。特に今年に入りましてEVに関しては世界的に動きが加速しています。EVの普及はガソリンの使用量にも関係してきます。電気はどのように作るのかという問題はありますけれども、市としましては、技術革新の分野でもありますので情報収集はしていかなければいけません。水素に関しましても山口県内では大きな取り組みが進んでいます。山口市としては出来ることを考えつつ進めていきたいと考えています。それから重点プロジェクトに関する取組ですが、様々な分野のつながりは、環境基本計画におきましては、エシカル消費、48ページで環境にやさしい社会経済のしくみづくりとしてできることを章立てさせていただきました。これまでの環境問題はごみを減らすということ、これも具体的取組としては重要なことですが、現在はエシカル消費ということが盛んに言われております。ごみを発生段階から押さえていくというような、市民の皆さんが食品を始めとする様々な商品ができるまでがどのようなつながりを持っているのか、リサイクルできるもの、ごみの発生を抑えられるものがひいては地球環境負荷の軽減につながっていくものを認識していただきたいという思いからこの単語を使わせていただきました。そうした考え方を市としては市民の皆さんへ広げようというスタンスで取り組んでいます。幅広くやっていますというとなんか難しくなってくるので、まずは、エシカル消費の普及啓発を環境基本計画の中での重点的な取り組みとして、つながりを意識した環境問題、社会や経済の環境につながっていくということで重点的に普及啓発をしていこうと考えています。

**【委員】**

48ページあります高齢化による環境問題への影響の所ですが、山口市の高

齢化が28%で30%を超すことは目に見えていて、高齢者によるごみ出しが難しくなっていく人が増えてくるのではないかと思います。戸別の収集を求める声があるということですが、他の市町は要介護度によって戸別収集を行っているということを聞いていますが、戸別が難しいと思った時に地域住民によるごみ出しの手伝いといったことを構築していかなければいけないということをおもいました。あるところは、ごみ出しのチケットを用意して1回が80円ぐらいだそうですが、50円をごみを出してくれた人に差し上げて、残りの30円はシステムを回すためのサポートセンターに蓄積して、事業を回していているそうです。隣近所で無料でということもあるのだそうですが、無料では利用者が気兼ねをするということで、お金を払った方が利用する方も気兼ねがないということでチケットの発行を行ったということをおもっています。ごみが出ていなければ、どうしたのだろうという高齢者の安否確認にもつながるということで地域づくり協議会と協働し、そうしたシステムを構築するということをおもえられたらどうかということをおもいました。

#### 【事務局】

高齢化による環境問題の進行という項目で書かせていただきました。ご指摘のとおり重要な課題であろうと考えています。山口市の近隣では防府市さんが戸別収集をされていますし、環境部としてもそのような取組について研究を進めていく考えです。現在山口市としては、介護サービスを中心としたゴミの収集に取り組んでいます。今後のニーズの増加も十分考えられますので、環境部として率先して取り組まないといけないことは認識しています。その中でどのような取組ができるのかということについては現在も研究を進めている所でございます。市としての施策を打ち出せればと思っています。その際には、協働のまちづくりという点から地域づくり協議会や単位自治会との協働も考えなければいけませんので、その際はお願いをすることになるかと考えています。

#### 【委員】

先ほどの説明と重なる部分もあろうかとは思いますが、エシカル消費の部分ですが、これからの10年の環境基本計画ということで、これから市民の皆さんに周知をしていくことだとは思いますが、今の段階ではエシカル消費やSDGsという言葉が一般の市民の皆さんには周知されていないのが現実だと思います。これまでも行動されている市民のみなさんは、地元の産物を利用するということがエシカル消費の一環であるということが市民の皆さんに理解していただくのに時間がかかるのではないかと思います。これからの世代を担う子ども達や若い世代の方にしっかりと知らせていただいて、自分が商品を買うという行動を起こす時に、どういった選択を行うことが大事なのかを1人1



人が考えられるような大人に育っていくように、教育の面から大切にしていただきたいと思います。もう1点ですが、進行管理指標の数字ですが39ページで、住宅用の太陽光発電システムの導入件数が基準値5942から10年後の12000件は倍以上ということになっていまして目標がかなり厳しく設定してあると思います。このシステムを導入するためには経費ももちろん掛かりますので、ここまで増やせることについて疑問に思ったのですが。

#### 【事務局】

エシカル消費についてですが、ご指摘のとおり、策定部会の中でもエシカル消費や温暖化実行計画の方でも適応策についてもまだまだ普及していないという意見をいただきました。その点は事務局としましても十分に理解をしている所です。すでに実行していることもエシカル消費だということも分かっていますので、こういった行動がエシカル消費というキーワードとして記載をさせていただきました。言葉も含めまして、こうした定義が環境負荷の低減につながっていくことをアピールしていきたいと思っていますので、今後の取組になるかと思っています。教育に関しましてはこれから教育委員会との連携を深めていこうと考えていますので、重点プロジェクトの中で副読本についても触れていますので、その中でもトピックス的な記事を入れられればと思っています。こちらは来年度から動き出そうと思っていますので、委員さんの意見も含めしっかりと考えていきたいと思っています。子どもたちへの環境教育の大切さは教育委員会の担当者とも十分な意見交換は図れていると思いますので、普及啓発の中でも重点的にと思っています。それから住宅用の太陽光の目標値が約2倍というお話をいただきました。ハードルの高い数字という認識はありますが、現在でもエネルギーゼロハウス、ZEHと書きますが、この市販化もされています。これから先はもっと太陽光発電、エネファームといった設備をつけようという方も増えてくると思います。住宅用の太陽光は既にかかなり広まっていますが、これも再生可能エネルギーの普及の指標としてあげている所です。取り組んでいただくことが環境問題の解決の方策であるという視点での普及啓発は進めていきたいと思っています。数字の方ですが、今後の住宅の建て替え、増改築のタイミングをとらえ、市民のみなさんに取り組んでいただければ、決して不可能な数字ではないと思っていますが、少なくともこの数値の大幅な増に向け積極的に取り組んでいきたいと考えています。1軒1軒への補助制度というのは、今の時代で財源的な面からも難しい所ではありますが、家庭の電力消費の低減につながるという切り口をもって地球環境へのやさしさも理解していただければと思っています。

#### 【委員】

少し議論が戻るかもしれませんが、動植物の保護ですが、特定外来生物とし

て、ヌートリアやオオキンケイギクを駆除するという話と有害鳥獣の被害、最近では都市にも出てきていますが、サルやシカは在来種であり、特定外来生物の抑制と棲み分けを市の方でもしなければいけないと思います。19ページの市民の取り組みに動植物をむやみに捕獲・採取、傷つけないようにとありますのでこの点で矛盾があります。特定外来生物の駆除について説明をしなければならぬと思います。また、在来種についてもその数についてある程度の抑制をしなければならぬことの説明も必要だと思います。その点は環境学習も必要でしょうし、計画内でのリンクについて記載がなかったように思いました。それから、農業的な観点ですが、浮田先生の方からコンポスト化し、堆肥に利用する。これは自分でもやっているとありますが、有機肥料や堆肥をたくさん入れても環境負荷は同じで、結局は植物養分をどのぐらい土の中に入れるのかという話で、堆肥由来か化学肥料由来かで、最終的にはどれも過剰になってきます。今までは、土づくりと堆肥を入れた上で化学肥料を入れていた。今は、総合的に養分として計算をしましょうということで、堆肥を入れる量が逆に減っています。化学肥料をゼロにすることは難しく、即効性で効かせたい部分もありますので、総合的な取組と土壌中にむやみに養分を残さないということを体系的に考えなければいけないと思っています。全国的な総量の試算では、農地での処分は不可能という計算結果も出ていますので、そこをどうするのか考え、最終的には生物系廃棄物になるものは国内に入れたいという取組になろうかと考えています。ここでは食べ残しという話も出てきています。湯田温泉近辺で大人用のコース料理なんかをお願いすればできるだろうと思いますので考えていただきたいと思います。また、先ほど太陽光発電の話もありましたけれども平成39年頃は最初に太陽光発電をつけ始めた機器の寿命が来るような時代で、その方たちがもう一度つけてくれるかは、収入が年金だけになっていたり、怪しいものがありますので、太陽光発電にそこまでの期待をしていいものか悩ましいと思います。主要な居住スペースの窓を2重にするだけでも全然違うと思いますのでもう少し安価な対策を考えてはと思います。

#### 【事務局】

大きく3点の意見と思いますが、まず有害鳥獣や特定外来生物のところですが、ご指摘のとおり命を大切にす視点からの問題と山口市の自然環境を保全していくための駆除は行政の中でもひとつのジレンマとして続いております。現在の市の組織で言いますと、自然保護の部分が環境部、有害鳥獣の駆除が経済産業部の農林担当部局となっておりますが、そのバランスは大きな課題であろうと考えています。特定外来生物に関しましては個別の法令がありまして、駆除をしていく、広げないというという視点がありますので、山口市の環境の中からは、出来るだけ取り除いていきたいと考えています。片や動植物をむやみに捕獲や採取したり傷つけないという部分での従来の山口市の自然を守っ

ていこうということもありますので、両立させていくこと、バランスを取りながら関係部局で調整を行いながらと考えており、その方向性が18～19ページに記載してあります。土壌への養分の話ですがご指摘の点について話は聞いております。コンポストに関しましては、食品残さの問題もありますのでその観点から取組を進めていければと思っています。土壌中の養分の話につきましても、今後の10年間で考えていく必要があると思います。現段階ではごみの減量化として行っていますので事業の継続ということから記載させていただきました。食べ残しの関係も食品ロスの重要な施策として位置づけております。食品ロスを発生させない取組が重要なことと認識をしており、3010（さんまるいちまる）運動も広く普及していきたいと思っています。過剰な食品ロスを発生させないような意識啓発の中で取り組んでいただけるよう重点としております。太陽光発電の今後の展開ですが、FIT法の動向を見ましても買い取り単価はだんだん下がってきている傾向にあります。太陽光発電をはじめとした再生可能エネルギーの普及は、設置にかかるコストの部分が課題であると認識しており、10年後には太陽光発電パネルの処分の問題も発生してこようかと思っています。これは、山口市のみでなく全市、全国的なことかもしれませんが、エネルギー問題の中で広く取り組んでいくことでもあります。ここでは、太陽光発電を広く普及させることとして進行管理指標としてあげさせていただいています。また、将来的な課題も認識しながら考えていきたいと思っています。

#### 【委員】

45ページの環境学習の進行管理指標ですが、学校教育における出前講座の回数、環境施設見学受入人数の数値だけを見ますとほぼ横ばいに見えますが、量より質ということもありますが、部会の附帯事項では、環境学習での自然体験が少ないということがありました。ここが重点プロジェクトに繋がり新しい事業も記載されていますが、進行管理指標との関わりはどのように考えたらいいのでしょうか。

#### 【事務局】

指標の動きとしまして、今後の動きが出ていない部分に関しましては、現状で最大の数値に近いことがあります。例えば、学校教育における出前講座の回数28年度で34回、39年度で35回と現状でもほぼ全ての小学校を回っているのが現状でして、ここは回数を落とさずに維持し、各学校の開催回数をキープしていきたいと考えております。環境施設見学受入人数も同様でして、かなりの人数を受け入れている部分もありますので維持するという姿勢が数字に表れていると思ってください。また、47ページの環境保全活動イベントの参加者数や山口市地球温暖化対策地域協議会との連携によるイベント・講座の

参加人数は、項目である多様な主体による環境保全活動の促進の取組でして幅広く、人の広がりも考えて伸ばしていきたいという思いです。また、新しいイベントも考えていく予定ではありますが、受入れ人数の関係もありますので、上限値を指標化しています。

**【会長】**

たくさんの意見をありがとうございました。それでは、本文へ反映する意見と部会の意見に追加して、附帯意見とさせていただく意見については、会長の私と副会長に委ねるということによろしいでしょうか。その他になれば、「山口市環境基本計画案について」は、以上とさせていただきます。

**【会長】**

それでは次の議題に移りたいと思います。議題2「山口市地球温暖化対策実行計画について」、事務局から説明をお願いします。

**【事務局】** <計画案の説明>

**【会長】**

ありがとうございました。ただ今、事務局から「山口市地球温暖化対策実行計画区域施策編案について」の説明がありました。委員の皆様には、計画案の内容について、御質問がございましたら、挙手をお願いいたします。

**【委員】**

適応策について周知することはいいことと思うのですが、5ページの山口市の日平均気温が上がっていることに驚いているのですが、以前に聞いた話では、急に冬場に果樹ができない気温になるということがあり、本当は農業の関係かもしれませんが、ある年に最低気温が下がらずに全然出来なくなってしまう。そのため、地域で作る品目品種を早めに対応させた方がいいのではないかと思います。生産力が上がるまで数年係る品目もありますので、候補地など早めにリストアップして対策していただきたいと思います。

**【事務局】**

温暖化対策における適応という考え方につきましては、この時期に策定するタイミングを考えますと是非必要であろうと環境基本計画の方にも入れているところがございます。適応策につきましては、様々な分野で取組がされているところではありますが、これを横断的に取りまとめていく計画を考えています。これは、国が法制化も考えていますので、それに沿った取組になろうかと思っています。具体的な取組として意見をいただきました品種改良といった取組も

あろうかと思いますので、農林部局と歩調を揃えて取り組んでいきたいと思っています。

**【会長】**

他に御質問がございますか。特になければ、いただきました意見を附帯意見として記載するのか、またその文章については、会長の私と副会長に委ねるといふことでよろしいでしょうか。特になければ、「山口市地球温暖化対策実行計画について」は、以上とさせていただきます。

**【会長】**

次に、お手元の次第にありますように、本日の議題の3でございます、平成29年度版環境概要について、事務局から説明をお願いいたします。

**【事務局】** <説明>

**【会長】**

ただいま、事務局から「平成29年度版環境概要について」の説明がありました。委員の皆様には御質問がございましたら、挙手をお願いいたします。

**【委員】**

なぜ、環境概要を作るのかは、市民や事業者に周知するということでしたが、それだけではもったいない資料だなと思いました。多くの方の尽力により山口市の環境がどう変わり、良くなったのか悪くなったのか。今後の環境施策にどう反映させていくのか。もちろん現状を周知することもあると思いますが、折角作業をされていると思いますので、活用していただきたいと思います。それから「主な指標の考え方」記述内容が少し違いまして、それぞれの担当で書かれるためかもしれませんが、新しい計画の進行管理の際には、是非考えていただきたい。なぜ進行管理指標にしたのか、どう数値を算出するのかでは、計画の策定の際の考え方になりますので、説明するというところで掲載されるのもいいとは思いますが。「評価」では単純に数値の説明のみと今後どうするまで記述されたものもありますので、先ほど言いましたように、なぜ環境概要を作るのかという視点で、出来ればこの評価を受けて「低」「達成」について、今後の環境施策としてどのように対応するのか記載していただきたい。行政の立場から難しいこともあると思いますが検討をお願いします。

**【会長】**

はい、貴重な意見ありがとうございました。

**【委員】**

エコファーマーの認定者数ですが、人数が減ってきていると言われましたが、減少の理由は高齢化などあるかと思いますが、評価の所に現状の理由を記載していただくと考えなくていけないと思いますがいかがでしょうか。

**【事務局】**

所管部署と調整していきたいと考えています。これからも継続する指標ですのでこれからの進行管理につきましても、まずは目標値も現状を踏まえまして、これから増やしていくことが相応しい指標なのか、現状維持の指標なのか、それから基準値につきましても現在は改定時の数値となっていますが、総合計画の指標と合わせまして全庁的に取組を進めていきたいと考えております。

**【委員】**

山口市の環境の状況で光化学オキシダントの項目が全部バツになっていますがこの測定は何箇所で行われているのでしょうか。その測定の日が悪かっただけなのかという状況が分からないのでお聞きしたいのですが。

**【事務局】**

この数値は、平成28年版山口県環境白書から記載をしております、実際の計測箇所につきましては、県に確認し報告させていただきます。

**【委員】**

エコファーマーの件ですが、他市で話を聞いたことがあるのですが、新規就農の方に高い意識を持って取り組むような栽培方法を推奨している。それを技術的にサポートすることがありまして、100人単位で増やすことは難しいですが、熱意を持って取り組もうとする人たちに推奨する方法はあろうかと思えます。それと農地としていい場所が宅地などになったりして、農地が歪になった件がありますので農地として集約できることがありましたら、取組も進めやすくなるのではないのでしょうか。高齢の農家の方は無償で貸すよという人もいますので、リストアップができるようであれば、新規就農の方に貸すといったこともできるのではないのでしょうか。

**【会長】**

他にございますか。なければ、議題3「平成29年度版環境概要について」は以上とさせていただきます。それでは審議は以上としまして、進行を事務局へお返しします。

	<p><b>【事務局】</b></p> <p>それでは、今後のスケジュールとしまして、本日いただきました意見を会長、副会長と調整をしまして、環境基本計画、地球温暖化対策実行計画について、年明けに市長へ答申を予定しています。その後、パブリックコメントを踏まえまして、3月末に公表とさせていただきます。</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>委員の皆様、本日はお忙しい中、長時間にわたり、ありがとうございました。今後も、本市の環境行政の推進につきまして、変わらぬ御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます、閉会の御挨拶とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。</p>
<p>会議資料</p>	<p>1 環境基本計画案について</p> <p>2 山口市地球温暖化対策実行計画案について</p> <p>3 平成29年度版環境概要</p>
<p>問い合わせ先</p>	<p>環境部 環境政策課 環境企画担当</p> <p>TEL 083-941-2180</p>